

ジャズの聖地 スィングしていた街

メガロポリス

ひとつ Megalopolis

ジャズ発祥の地、米国南部ニューオーリンズで40年前に武者修行したジャズミュージシャンの夫婦が、当時撮った写真を「聖地ニューオーリンズ 聖者ルイ・アームストロング」として出版した。時代の移ろい、ハリケーンの直撃で大きく変わった聖地だが、かつての生き生きした姿を残したいとの思いを込めた。

(久松弘樹)

ジャズミュージシャン 外山夫妻 写真集



ンに親しまれている。夫妻がニューオーリンズを訪れたのは1968年1月。大学のジャズ同好会で出会った2人は、サッチモに惚れ込み、就職、結婚後、1年余りで仕事を辞めて移民船で米国へ渡り、5年間滞在した。

アパートは、窓ガラスが割れ、ベッドにはカビ、台所を虫がはい回っていたが、喜雄さんは「街がスィングしていた」と振り返る。黒人の公民権運動が続

40年前のニューオーリンズ

「音楽愛する心 被災後も生き続けて」

出版したのは千葉県浦安市の外山喜雄さん(64)と妻の恵子さん(66)。デキシールランドジャズのバンドで、

ームストロング(愛称サッチモ)のように喜雄さんがかすれた声で歌う姿は「日本のサッチモ」としてファ



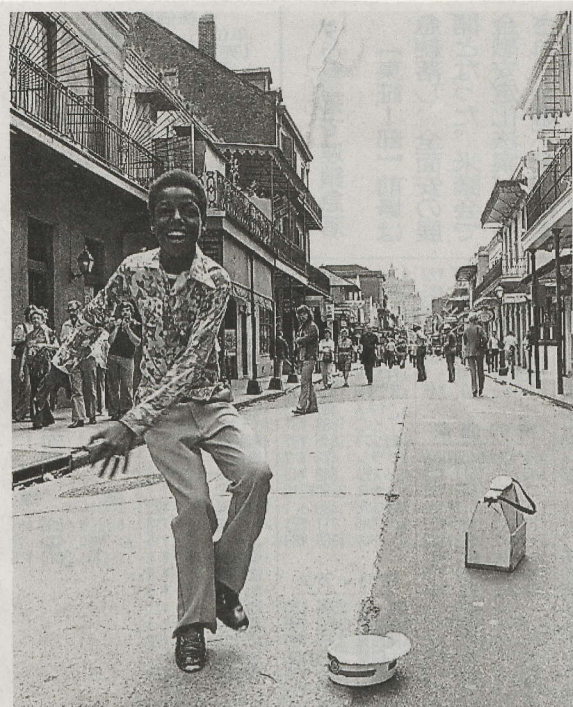
待があふれていた。2人には忘れられない場面がある。ニューオーリンズ独特の「ジャズ葬」だ。誰かが亡くなると、ジャズメンによる楽団が結成され、100人を超える葬列が続く。だが埋葬を終えると、太鼓のリズムが陽気なテンポに変わり、行列の感

情は一気に爆発した。十数年後、再訪したニューオーリンズに、かつての陽気さはなかった。学校の入り口には、銃などを持ち込ませないため、金属探知機が置かれていた。2人は、使われなくなった楽器を、現地の子供たちに贈る運動を始めた。しかし、05年には、ニューオーリンズをハリケーン「カトリナ」が襲い、支援してきた学校は水没した。

昨年、夫妻は寄付金や楽器を携えニューオーリンズの最貧地区を訪れた。被災から2年たっても、再建した家は3軒に1軒程度。残りはまだがれきだった。

写真集は、1万枚を超える写真から選んだ269枚とエッセーで構成。「街は時代と災害で変わったが、聖者サッチモが残した音楽を愛する心は、生き続けてほしい」と喜雄さんは願う。

①ニューオーリンズの目抜き通りバーボンストリート。靴磨きの少年たちは、店から流れる音楽に合わせてタップを踊りチップを稼いでいた。②演奏するブラスバンドの子供たち。いずれも1973年撮影、外山夫妻提供



1890円(税込み、冬青社刊)。